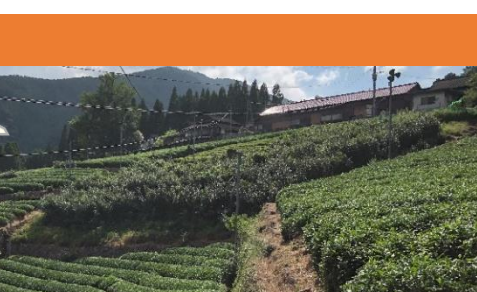


いずみ まち せい ぶ

⑪ 泉町西部地区 (八代市)

◆農家戸数 24戸
◆農地面積 35.1ha (うち20haは水田)

いずみ茶を将来へ引き継ぐために ~いずみ茶のために今すべきこと~



[中山間農業ビジョンの概要]

集落の課題(現状)

- 農業の魅力不足、若者の地域離れ
- 生産農家の減少、茶の販売力低下
- 茶工場の老朽化
- 茶園の分散錯圃による非効率性
- 茶の改植が必要だが、負担大
- 集落機能の低下、存続の危機

目指す将来像

- 地域特産品の開発、販路開拓
- 優良茶園の担い手への集積
- ヒバ・柚子など低負担作物の導入
- 農家の分業化、作業効率の向上
- 地区外からの担い手受け入れ

具体的方策

- 基盤整備(作業道、区画拡大、石積み補修など)
- 機械の共同利用化(摘採機、軽剪枝機など)
- 茶工場の再編(機械導入、共同化、大規模化など)
- 改植の実施による茶の生産量・品質の向上
- 農転換作物の導入(ゆず、ヒバ、トウガラシなど)
- 転換作物の導入と地区外の加工所との連携

[ビジョン策定のプロセス]

ビジョン策定以前

◆八代市への合併前から、茶業の中核組織「泉町茶業振興協議会」があり、茶業農家のまとまりが形成されていた。

◆中山間農業モデル地区の設定にあたって、事前に茶業振興協議会で有効な活用方法について協議。

◆将来的にも茶業の継続が見込まれ、成果が上がる可能性のある地区を選定。

振興協議会による基本方針

◆泉町茶業振興協議会は会員21名(100%茶業の農家)によって構成。
◆うち若手後継者は30代男性2名。40~50代が3名。他は60歳以上。

◆方針を決めるにあたり、会員からは「茶業を継続的に続けている地区、後継者がいる地区を中心に活用したほうがいい」という意見が多かった。

◆後継者がいる地区を当事業で優先的に活性化させる。このことが将来的には泉全体の茶業・景観を守ることに繋がるという考えである。

◆この基本方針で合意が形成された。

農業ビジョンの策定

◆平成29年10月、ビジョン検討スタート。
◆翌年同時期までの1年間で検討会・現地調査・視察などの開催は合わせて17回に及んだ。

◆基本方針は決定されているため検討はスムーズであったが、作業道整備など茶業以外の土地が含まれる案件もあり、慎重な話し合いが求められた。



継続的な話し合い

◆基本方針の合意形成はスムーズだったが、個別の案件では意見の相違も生じた。

◆1地区については茶業振興協議会以外の農家(水田など)も含まれる。川向かいにある茶園のために作業道整備の計画をしたが、計画区域に茶業以外の農地があるため実施できない箇所があった。土地所有者と話し合いを行うなど、継続進行中である。

⑪泉町西部地区(八代市) いずみ茶を将来へ引き継ぐために ~いずみ茶のために今すべきこと~

[具体的な取り組み 計画と取組現状]

成果目標(令和4年度):①転換作物を導入し所得確保を図る ②茶栽培を再編・集約化、規模拡大による所得確保、コスト削減を図る

1. 基盤整備などの実施

作業道の整備、区画拡大、石積み補修などで、農作業の負担軽減を図る。

- ◆ 広平地区の作業道を拡大整備。平成30年度は680m、令和元年度は50mを施工完了。野添地区も令和元年度までに70m施工する予定。
- ◆ 区画拡大は継続検討中。分散錯圃・勾配差のため区画整備が難しい。
- ◆ 石積み補修は、平成30年度に190㎡、令和元年度に100㎡の修復を完了。
- ◆ モノレール設置は、管理・維持費の問題があり、道路整備に変更。



耕作道路整備の前と後

2. 機械の共同利用化

摘採機などの購入、共同利用化により、農作業の負担軽減を図る。

- ◆ 令和元年度までに摘採機等12台導入完了。
- ◆ 現在、茶の摘採はR3000(茶畝上面の曲率)が主流になっており、徐々に変更中。

3. 茶工場の再編

茶工場に機械を導入し共同化・大規模化。生産・出荷の分業化を図る。

- ◆ 継続検討中。いずみ茶の生き残りを目指すために共同化を進めていく。
- ◆ 億単位の費用がかかるため、計画はあるが具体的には進行していない。

4. 改植の実施

茶の改植で生産量・品質の向上を図る。

- ◆ 継続的に検討中。今後、茶品種を考慮しつつ植え替えを行う予定。
- ◆ 耕作放棄地は、景観の上からもヒバや柚子への転換を話し合っている。

5. 転換作物の導入

柚子、ヒバ、トウガラシなどの転換作物を導入し、販路拡大を図る。

- ◆ 令和元年度までに、柚子は5ha、ヒバは20haを転換作物として作付けを実施。
- ◆ 茶が需要減少・価格低下傾向にあり、需要に合わせた転換を進めていく。

[成果と今後の展開方向]

1. 全体的な成果

- ◆ 作業道の拡大整備、石積み補修は順調に伸長。ただし、区画拡大については継続検討中。
- ◆ 摘採機を令和元年度までに12台導入。現在、後継者がいる区画で運用中。
- ◆ 転換作物導入を進行中。柚子5ha、ヒバ20haの作付けを実施。



作付けされたヒバ(左)と柚子(右)

2. 今後の展開方向

- ◆ 農地集積化・作業道確保について、さらに各農家の理解促進が必要。
- ◆ 多額な費用がかかるため、国の事業の活用などで、引き続き検討・計画を進めていく。